

右宣旨す

一九三〇年十一月十日

大杉印刷所従業員一團

大杉直次郎一殿

別紙云

○所氏諸君に懇ふ

御意を以て諸君!

依り大杉印刷所が今回の暴行に出た事については早も打撃を感懐の同類でなく、在りね権立にあると云ふことと、秋收したくと思ふのであります。

去り十日工場は減給と減賃を我々の宣言した。従来全従業員は他の同業者と比擬して通金を割多く、諸君の想像を及ばない薄給を以て酬使されわりのにありやうす。我々の生活は賃に負負をたるとありやうす。賃上死海線の上を道つておるものありやうす。然るに工場主の宣言は依り我々従業員は全く生活費を省れてしまふ様な状態になる不ありやうす。此に我々従業員一同は在りね権立を工場主に対して強いて起つて生活費補償のため、自身を例として漸進的交渉を取り上げたのであります。御意を以て諸君!

賃上げ交渉は所氏より我々の要求が下として、従大杉印刷所と同様と交渉を賜はうんことを切望する次第であります。

大杉印刷所従業員一團

別紙四

檄川

全印刷従業員諸君!

多年独裁主義を以て誇り一面浸透主義を以て誇り、魔障せしめた大杉印刷所に、突如秋收の鐘が乱打された。

去り十日工場主は減給と減賃を我々の宣言した。我々従業員一同は在りね権立を工場主に対して強いて起つて生活費補償のため、自身を例として漸進的交渉を取り上げた。

全印刷従業員諸君!

今回の我々の斗争の結果は過去に類々として起りつゝあり、將來に於ては起る下ありやう。火の全労働者諸君の生活費補償のため、一助として力をおたうと思惟するものがある。

折衷は全労働者諸君、我々従業員諸君のため、絶大なる内情を援助を乞ふざらうんとせ、切望する。

大杉印刷所

大杉印刷所従業員一團